

血液型検査2回別採血の周知に向けた当院の取り組みについて

◎藤間 有美¹⁾、小島 理司¹⁾、松本 麗¹⁾、佐々木 健太¹⁾、矢野 佐知子¹⁾、三藤 浩¹⁾、佐野 剛史¹⁾
川崎市立井田病院¹⁾

【目的】血液型検査2回別採血は、輸血過誤を防止する重要な工程である。「輸血療法の実施に関する指針」には「同一患者からの異なる時点での2検体で、二重チェックを行う必要がある」と明記されているが、この重要性について、職員の認識が不十分であり、2本同時に採血をしている事例が発生している。また、血液型用採血管が2本同時に検査室に提出された場合、異なる時点で採血をしたか不明のため、臨床検査技師がその都度、採血者に確認を取っており、回答までに時間を要する場合がある。今回、2020年度に発生した2件のインシデント報告を契機に、血液型検査2回別採血の啓蒙として、ポスターを作成した。また、採血管に貼付するコメントラベルを導入したところ、一定の効果が得られたので報告する。

【方法】

①ポスターの作成：血液型検査2回別採血の重要性を周知するために、血液型用採血管の採り間違い及び2本同時採血のインシデント事例を掲載したポスターを作成し、検査室入り口に掲示した。併せて、医師及び各部署に配布した。

②コメントラベルの導入：血液型検査を依頼すると、採血管ラベルと共に「□血液型用採血管を2本同時採取していません」と記載されたラベルが発行されるようにした。このラベルにはチェックボックスが設けられ、採血者がチェックを入れる運用とした。

③研修会による啓蒙活動：年度内に発生した輸血関連インシデントについて、多職種に向けた研修会を開催し、原因と対策を共有した。

【結果】ポスターの作成及び研修会による啓蒙活動後は、採血の採り直しが減少した。またコメントラベルの導入により、採血者への確認が減少した。

【考察】2件のインシデント事例を掲載したポスターを作成したことで、輸血過誤の注意喚起と血液型検査2回別採血の重要性を訴えることができた。特にコメントラベルは、採血者が異なる時点で採血したことを証明するものとなり、採血者への確認が省略され、滞りなく検査を進めることが可能となった。今後も、継続的に血液型検査2回別採血の啓蒙を行い、輸血医療の安全性を向上させていきたい。